

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動と進路支援	目標	生徒の実態の把握に努め、きめ細かい進路支援を全校体制で行う。授業の充実を中心に据え、学年と教科が緊密な連携と情報共有を図り、幅広い学力層に対応できる体制を構築する。
		計画	<p>(1) 学期始めの面接週間に加え、生徒の実態に即した面接指導を行う。年間6回以上の面接を行い、生徒の実態把握・信頼関係の醸成に努める。</p> <p>(2) 分掌、学年、教科間で緊密に連携を取り、生徒の課題解決能力を養う学習活動としての個別的・主体的取り組みを促す。</p> <p>(3) 幅広い学力層への対応と意欲的・主体的な学習活動が展開されるよう教科内で検討・総括を行い、生徒の学習意欲向上と授業改善を図る。</p>
(2)	学校生活	目標	<p>(1) 自主自律の精神に満ちた主体的に取り組む集団の形成</p> <p>(2) 生活のリズムを整える食習慣の定着</p>
		計画	<p>(1) 生徒会執行部、校紀委員会の主体的な活動を通して、「行動指針」を策定し、望ましい校風の醸成を図る。</p> <p>(2) 朝食を始めとした食習慣の実態を把握し、食事の重要性を理解するとともに、生活習慣を考えさせる。</p>
(3)	学校の活性化	目標	<p>(1) 学校行事や部活動を通して主体的な活動を心掛け、学校生活の充実を目指す生徒の育成</p> <p>(2) 読書活動の推進</p> <p>(3) 校内や戸出地域における様々な形のボランティア活動を通じて、奉仕の精神を養い、地域愛を育む。</p>
		計画	<p>(1) 学校行事・部活動等が生徒一人ひとりの創造力や主体性を発揮する絶好の機会であると意識させるとともに、学校生活の中で主体的に行動できる場を設定し、それをサポートする。</p> <p>(2) ①朝読書の時間を充実させる。 ②授業や探究活動における図書館書籍の利用を促進する。 ③図書館の広報活動（POPカード、新着図書案内、校内掲示板など）に努める。</p> <p>(3) ホームルーム活動等を利用したボランティア活動の企画・実施を推奨する。</p>

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
(4)	S O U T H 探究プロジェクト	目 標	大学・地域と連携し、探究力の育成を通して、生徒が本気で学びたいという意欲を涵養し、大学での学びにつなげる。
		計 画	<p>(1) 地域（企業・行政）と連携し、課題発見・課題解決方法を地域企業・地域行政をテーマにして学ぶとともに、探究学習の基礎（リテラシー）を学ぶ。また身近な地域を課題にして探究をすることで、将来の社会とのかかわり方の視野を広げる。</p> <p>(2) 大学との連携により、探究力・自己発信力を育成する。富山大学との連携により、大学の学びが社会に繋がることを理解させ、学習意欲や進路意識を高める。</p> <p>(3) イノベータープログラム（アントレプレナーシップ教育・グローバル教育）により俯瞰して対象を捉える中で、高い志を持ち主体的に学んでいく力を涵養する。</p>
(5)	人文科学 コースの 活動推進	目 標	コミュニケーション能力や人文科学の専門性が高い人材を育成し、進路実現を図る。
		計 画	<p>(1) 授業「文化と情報」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発見学習や発展学習を多く取り入れることにより、情報発信力、実践力や積極性を育てる。 ・ 外部講師によるセミナー等の校内・校外学習での学びをもとに、発見・発展学習を多く取り入れた質の高い授業を実践する。 <p>(2) 校外校内学習「セミナー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多分野の知識を連携し、国際的な視野で思考力・情報発信力を伸長する。ワークショップを通して、国際・社会についての視野を広める。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和8年度高岡南高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動と進路支援
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業を通じて学力を伸長することを学校全体で共有し、生徒の進路志望と実態に即した学習活動となるよう工夫する。 ・面接週間を中心に、こまめに生徒との面接を行い、生徒の主体的な学びと自己実現を支援する。 ・生徒の進路支援のための『全校体制』のあり方を研究する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒ほとんどが大学進学を志望している。中学までは与えられた課題にまじめに取り組むことで好成績をあげてきた生徒が多いが、自らの進路について明確な目標を持っている生徒は多くない。 ・生徒自身が主体的に自らの将来を見据え、自己の適性・能力を認識しながら主体的に学ぶ姿勢を育成し、入試に対応できる学力を身につけることができるよう支援する必要がある。 ・生徒の進路支援を全校体制で取り組んでいるが、教員の多忙化の中、学年や担任への負担が大きい。どのような体制をとることが必要か全校で考えていく必要がある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路意識向上のための面接指導を、各学年概ね6回以上実施する。 (2) 平日の家庭学習習慣を確立する。平日は1年生2時間、2年生3時間、3年生の6月以降4時間、休日は1年生5時間、2年生6時間、3年生は6月以降8時間を確保できるよう支援する。 (3) 生徒の進路支援のための『全校体制』のあり方について検討を重ねていく。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学期初めの面接週間、各種テスト後の成績を渡すタイミングなどに個人面談をこまめに行う。 (2) 「授業の予習・復習・週ごとの課題」を中心とした学習習慣の確立を目指す。課題は、学年と教科が連携を図り、個々の習熟度に応じた取り組みができるよう設定する。 (3) 各学期末に進路と学習についてのアンケートを行い、生徒の現状や目標達成度を検証する。 (4) 学校訪問や学年部会、教科部会などを通して、効果的な体制作りのための意見集約と検討を行う。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和8年度高岡南高校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活
重点課題	(1) 自己教育力を高め、自主自律の精神に満ちた品格ある集団の育成 (2) 生活のリズムを整える食習慣の定着。
現 状	(1) 規律ある行動として「挨拶の励行」「時間厳守」「身だしなみ」「公共の場でのマナー遵守」「スマートフォンの適切な利活用」を挙げている。今年度は特に、社会的なルール・マナーの意識の向上とマナー遵守の実践に主眼を置きたい。 (2) 健康的で活発な学校生活を送るための方策の一つとして、朝食摂取の習慣化を掲げている。それによって脳や身体機能を目覚めさせ、集中力をもって日々の学習活動ができるよう生活のリズムや心と体のバランスを整えていく必要がある。
達成目標	(1) 社会的なルール・マナーを守り実践する。 90%以上 (2) 朝食を毎日とる習慣が身についている。 90%以上
方 策	(1) ①生徒校紀委員会を中心に各クラスの「行動指針」を策定し実践する。 ②「社会的なルール・マナー」についてアンケートを実施し、理解度を高め、実践していく生徒を増やしていく方策については、生徒間で策定したルールを守る形とし生徒の自主性を尊重する (2) 朝食を始めとした生活習慣の実態を把握し、朝食の重要性について機会を捉えて啓蒙するとともに、食習慣をはじめとして生活習慣を考えさせる機会を設ける。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	学校の活性化
重点課題	(1) 行事・部活動を通じて自ら創意工夫に努め、主体的に行動できる生徒の育成 (2) 読書活動の推進 (3) ホームルーム活動などを通じてのボランティア活動の推進
現 状	(1) 学校生活を意義あるものにするために、生徒一人ひとりのアイデアと主体的な姿勢が一層求められている。 (2) 図書の貸出冊数は減少傾向にある。(生徒一人 R6 2.4冊 R7 1.7冊) (3) 奉仕の精神に富む生徒が多く、ボランティア活動には意欲的である。
達成目標	(1) 生徒が考え、生徒が動く学校生活にするために、一人でも多くの生徒が工夫を凝らし、達成感と自らの成長を実感できることを目指す。 (2) 図書の総貸出数が年間1900冊(生徒一人あたり4冊)以上を目指す。 (3) 生徒一人ひとりがボランティア活動に年間一回以上参加する。
方 策	(1) 生徒一人ひとりに対し、高校生活が創造力と主体性を発揮する絶好の機会であると捉えさせる。各行事ごとに振り返りの機会を持つように努め、併せて様々な場面で声かけと側面からサポートを心掛ける。 (2) ①学年と連携し、朝読書の時間を充実させる。(朝読書用の書籍を図書館から継続して選んでもらう。朝読書に好適な書物の充実を図る。) ②授業や探究活動における図書館書籍の活用が推進されるよう支援する。 ③趣向を凝らしたPOPの作成や新着図書案内、校内掲示板の活用など広報活動に努める。 (3) ホームルーム活動等を利用し、各学年・クラス単位で校舎内外・戸出地区における清掃作業等のボランティア活動の企画・実施を推奨する。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

	令和8年度高岡南高校アクションプラン - 4 -
重点項目	SOUTH探究プロジェクト
重点課題	「SOUTH探究プロジェクト」については、令和3年度の制定以来、「生徒の心のエンジンを駆動する」ことを目標に様々な試みを実施し深化を続けている。スクールポリシー「SOUTH」を実現するために、地域企業・自治体・大学・PTA等と連携し探究活動を行い、情報発信力や課題解決能力を育成することを目指している。また、探究的な活動を通して、将来の社会とのかかわり方の視野を広げ、生徒のキャリア教育に資する。具体的には3つの探究「心の探究」をベースに「アイデア提案型探究」「テーマ研究型探究」を実践する中で、生徒が生涯にわたり探究する姿勢を涵養したい。
現 状	「SOUTH探究プロジェクト」では、探究的な活動を行い、1学年では行政と連携し地域課題をテーマに探究の手法を学ばせている。2学年での大学連携により探究力・自己発信力の伸長が期待されている。学びに向かう姿勢や高みを目指して挑戦する姿勢を高めるためにも、このプロジェクトを系統的に再編・組織化し、伸ばしたい力を計画的に育成する必要がある。
達成目標	「SOUTH探究プロジェクト」を通じて、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合 80%以上
方 策	<p>「総合的な探究の時間」「理数探究」「HR」を活用して実施する。</p> <p>① 1学年 課題の設定や情報活用能力など探究リテラシーを身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベータープログラム（アントレプレナーシップ講座・グローバル講座）を実施しデザイン思考を学び、マインドセットを行う。……「心の探究」 ・地域探究 「企業訪問」「高岡市連携講座」「探究リテラシー講座」などにより、身近な地域を課題にして探究し「課題設定力」「ロジカルシンキング」を学ぶ。産学官民連携により、将来の社会とのかかわり方へと視野を広げる。……「アイデア提案型探究」 <p>② 2学年 1年間を通して学術型の探究活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学連携講座Ⅱ（探究的な活動Ⅱ） 富山大学と連携し、将来進む可能性のある学問分野に関係した研究活動等を体験する。仲間と協働しながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、探究力・自己発信力を身につけさせる。理系に於いては更に数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせる。……「テーマ研究型探究」 <p>③ 3学年 データサイエンス講座により、探究力を高める。</p> <p>④ 富山大学薬学実習（希望者研修）イノベータープログラムを実践する場として大学実習を実施予定である。</p> <p>⑤ 海外研修（希望者研修）アメリカ合衆国サンフランシスコ等にて、大学訪問・高校訪問・企業訪問などを実施しグローバルリーダーを育成する。</p> <p>⑥ プロジェクトの評価と改善を行い、伸ばしたい力について全国の動向も含め検討し、学校全体で共有をはかる。（SOUTH探究プロジェクト2.0検討）</p> <p>⑦ PTASOUTH探究プロジェクト推進委員会との連携により、本プロジェクトの運営について助成を含めて組織化を行い自走をはかる。</p>

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	人文科学コースの活動推進
重点課題	<p>(1) 体験学習を中心に専門的で特色のある学習や活動を取り入れ、国内だけでなく世界において、リーダーとして活躍できる総合的な能力を身に付けさせる。</p> <p>(2) 授業内容を学校全体で共有し、教科間や外部教育機関との連携をとりながら、効果的な学習活動となるよう内容を充実していく。</p>
現 状	<p>(1) 授業と校外校内学習「セミナー」の連動により、生徒の能力を伸長できるよう日程や内容を計画・工夫している。</p> <p>(2) 授業「文化と情報」各教科担当者が期間ごとに内容を計画し実施しているが、年度初めに各教科担当者会議や互見授業を行い指導目標の共通理解と継続性を図っている。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人文科学コースの授業「文化と情報」で表現することへの関心・意欲とコミュニケーション力が高まった、と感じる生徒の割合が80%以上。 ・担当者会議・打合せ 3回以上 校内での授業やセミナーの参観者 のべ30人以上
方 策	<p>(1) 授業「文化と情報」(2, 3学年)</p> <p><2学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナーでの学びを参考に、自身の研究テーマを設定し、調べた内容を日本語や英語で表現する。また、その成果発表を効果的に行うために、様々な技法やICT機器を利用する。 <p><3学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学びを総合的に駆使し、自身の課題を発見し調査研究を進め、データ分析をしながら解決策を導き出す。最終的には英語でプレゼンテーションと質疑応答を行う。そのため本校卒業生が協働活動支援員として生徒をサポートする。また、その成果の発表を効果的に行うために様々な技法やICT機器を利用する。 <p>(2) 校外校内学習「セミナー」(1, 2学年)</p> <p>①サマーセミナー、スプリングセミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育機関や博物館などの施設で専門的な体験学習を行い、人文科学系の世界に触れ、興味のある分野の知識を深める。 ・人文・社会・国際系で活躍している人の経験談や専門的な話を聴き、ワークショップを通して、国際・社会についての視野を広める。 ・探究活動やプレゼンテーションについて学ぶ。 <p>②ウインターセミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生との意見交換や交流を通して情報発信力、プレゼンテーション能力を高める。また、規律ある態度、責任感、連帯感を培う。

()評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった